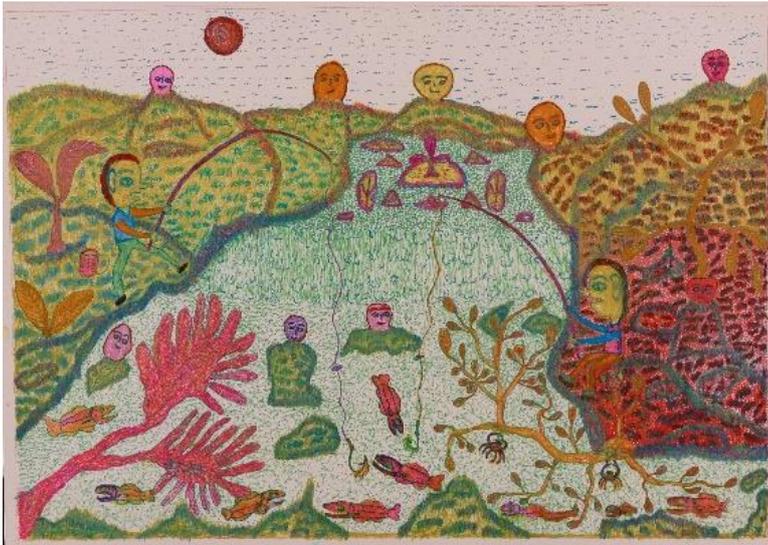


ボーダレス・アートミュージアムNO-MA企画展

# 絵になる風景

そこにある「風景」を、人はなぜ「絵」にするのか



古谷秀男 タイトルなし 2006年

ボーダレス・アートミュージアムNO-MAでは、2022年8月11日（木・祝）から11月6日（日）まで、企画展「絵になる風景」を開催します。

「風景を描く」ということを誰もが一度はしたことがあるはずです。またそれは、美術の歴史の中でもずっと昔から続く営みです。人間にとって、大切な画題である風景。本展では「絵になる風景」をテーマに7名のアーティストの作品を展示します。

## 展覧会概要

タイトル 絵になる風景

会場 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）

会期 2022年8月11日（木・祝）～11月6日（日）

開催時間 11：00～17：00

休館日 月曜日（祝日の場合は翌平日）

観覧料 一般300円（250円） 高大生250円（200円）

※中学生以下無料、障害のある方と付添者1名無料（ ）内は20名以上の団体料金

主催 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、京都新聞  
社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～

後援 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

協力 近江八幡観光物産協会、織り人（Orijin）、マエダクリーニング仲屋店、  
しみんふくし滋賀、生活介護事業びーと、大和高原 太陽の家

## 【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人事務局芸術文化部（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）

担当：横井、赤澤 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837-2

TEL：0748-46-8100 FAX：0748-46-8228 MAIL：kikaku@glow.or.jp

## ■ 展覧会の見どころ

### ◆ 「風景」の様々な表現を紹介します。

日常で見慣れた身近な風景や、心に描く心象風景、一族の歴史的な風景など、7名の作者による作品を通して、「風景」とは何か、「絵」とは何かについて考えます。



衣真一郎 《横たわる風景》 2021-2022年

### ◆ 古久保憲満の10mにおよぶ絵画を展示します。

滋賀県東近江市出身、国内外で作品を発表している古久保憲満。彼は世界の都市や電車、建築物、宇宙、車、船といった関心を寄せる物事を次々に吸収し、大きな紙面に描き進めていきます。本展は古久保の代表的な作品である10mの巨大な絵画が展示される貴重な機会です。



古久保憲満 《3つのパノラマパーク 360度パノラマの世界「観覧車、リアモーターカー、ビル群、首現木、鉄道ブリッジ、郊外の街、先住民天然資源のある開発中の町」》(部分) 2011-2016年

### ◆ 風景の背後には様々な歴史があります。

16歳から33年間、開拓移民としてブラジルで暮らした古谷秀男や、ベトナム戦争をきっかけにラオスやベトナムからタイの難民キャンプに逃れたモン族など、様々な歴史的な背景を持った作家たちによる作品を展示します。絵の背景に思いをはせることで、より深く、作品を楽しんでいただけることでしょう。



ドウ・セーゾン 《モン族の暮らし～日常の風景～》 2010-2017年

### ◆ 見えない、見えにくい人のための鑑賞方法を用意しています。

視覚障害がある方でも展覧会や作品の魅力を楽しめるように、触って楽しめる鑑賞ツールなど、様々な鑑賞方法を用意しています。



さわる展示の様子 ※画像はイメージです。

## ■出展者

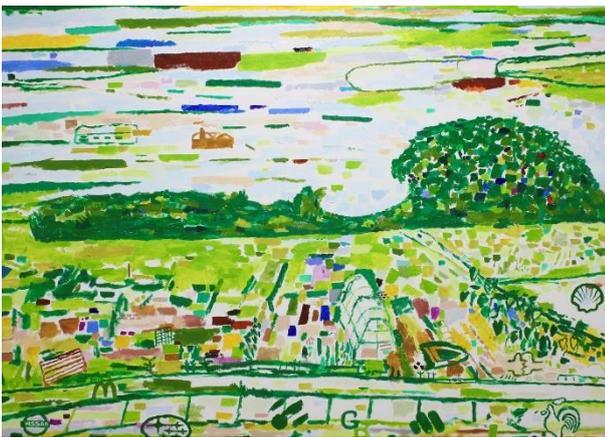
(1) 古久保憲満 Kokubo Norimitsu 1995- 滋賀県在住



関心を寄せる物事を次々に取り入れ、社会情勢なども組み合わせながら描く。本展で展示する 10m の絵巻物は、古久保が高校一年生から 5 年半かけて制作した、彼が描いた絵の中でもっとも巨大な作品である。

古久保憲満 《3つのパノラマパーク 360 度パノラマの世界「観覧車、リニアモーターカー、ビル群、昔現未、鉄道ブリッジ、郊外の街、先住民天然資源のある開発中の町」》(部分) 2011-2016年

(2) 衣真一郎 Koromo Shinichiro 1987- 群馬県在住



衣が描く絵のベースは、生まれ育った群馬県の山並みや田畑などの風景。そこにはシンプルな形と色に変換された、古墳や静物、家といった風景的要素が散りばめられ、一枚の絵になっている。

衣真一郎 《横たわる風景》2021-2022年

(3) ドゥ・セーソン Du Sae Song 1978- タイ・チェンライ県在住



タイの山地には、ベトナム戦争後、ラオスを追われる形で逃れたモン族が住んでいる。もともと文字を持たなかったモン族は、民族の歴史や文化の記録手段として刺繍を用いてきた。モン族としてのルーツを持つドゥ・セーソンもまた、幼少の頃から針と糸を持ち、数々の記憶を紡いでいる。

ドゥ・セーソン 《モン族の暮らし～日常の風景～》2010-2017年

## (4) 畑中亜未 Hatanaka Tsugumi 1973- 北海道在住



自宅ベランダのガーデンランプが夜に自動点灯したことがきっかけで、「光るもの」に強い関心を抱くようになった。以降、白熱電球や街灯などの照明器具から、稲光やスーパームーンといった自然現象にいたるまで、光るものなら何でも次々と絵にしていっていった。

畑中亜未《ライトアップ(1灯)》制作年不詳

## (5) 福田絵理 Fukuda Eri 1988- 群馬県在住

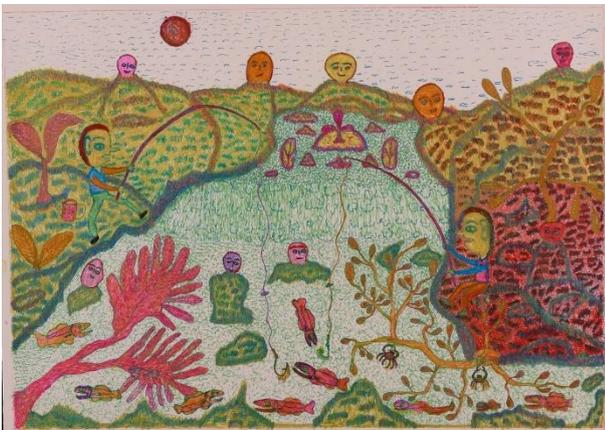


おぼろげな室内空間を描いている。窓とわずか漏れ出す光は、向こう側の世界があることを期待させる一方、同時に不穏な気持ちも呼び起こす。「現実ではなく、内側を描いている」と福田はいう。

<https://erifukuda.wixsite.com/artworks/>

福田絵理《部屋とひとかた、その他のなにか》  
2021-2022年

## (6) 古谷秀男 Furutani Hideo 1941- 奈良県在住



1957年、16歳で開拓移民としてブラジルに渡り、1990年頃に帰国。還暦を過ぎた2005年、入所していた奈良県にある福祉施設で、職員の勧めにより絵を描きはじめた。ブラジルと日本の両国で過ごした体験や感覚、記憶を基に、空想を織り交ぜたストーリー性のある絵を多数描いた。

<https://ableartcom.jp/furutani-hideo/>

古谷秀男 タイトルなし 2006年

(7) 三橋精樹 Mitsuhashi Seiki 1943-2020 頃 滋賀県



一見すると黒々とした平面のように感じられるが、じっくりと覗き込むと、そこには緻密に描写した光景が広がっている。絵の題材は、幼少の頃の記憶や青年期に旅行で訪れた場所、テレビ番組で流れたワンシーンなど多岐にわたる。また、裏面には主にカタカナで絵の内容が詳細に綴られている。

三橋精樹 無題 制作年不詳

## ■関連イベント

### “秋の沖島を描く” 写生会

琵琶湖に浮かぶ自然豊かな沖島へ渡り、出展者と一緒に島内を散策。秋の沖島の風景を描く写生会に参加しませんか？ 堀切港まではバスでご案内します。

講師：衣真一郎（画家、本展出展者）

日時：10月29日（土）9：00～18：00 頃

集合：NO-MA

定員：10名（要予約）

参加費：無料 ※NO-MA観覧料と乗船料（往復1000円）が別途必要です。

## ■障害などを理由に、NO-MAに行くか迷っている方へ

合理的配慮の観点から、できるかぎりの情報提供やスタッフによる対応を行います。

「さわって楽しめるものがある?」「これが苦手なんだけど大丈夫?」「静かにしなくてもいい?」など、気になっていることや必要なサポートについて教えてください。

また、本展では見えにくい方や聞こえにくい方、字を読むのが苦手な方に向けての「情報保障」や触って楽しむ展示物を準備しています。



詳しくはHPをご覧ください

## ■本展における新型コロナウイルス対応について

来場される方には、以下の対応をお願いします。

- ・体調不良（発熱・咳・咽頭痛・味覚障害などの症状）の方はご来場をご遠慮いただきます。
- ・マスク着用、こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒をお願いします。
- ・観覧中は、他の人と接触しない程度の間隔を確保してください。（障害のある方などの誘導、介助を行う場合は除きます）
- ・来場者が多い場合は、入場を制限させていただくことがあります。
- ・大きな声での会話はご遠慮いただきます。

主催者として、以下の新型コロナウイルス対策を徹底します。

- ・スタッフは毎日、検温・体調確認を行い健康管理に努めます。
- ・スタッフはマスク着用の上で案内します。また、こまめな手洗いをを行います。
- ・館内のドア、手すり、トイレなど、手を触れられる箇所の消毒を強化します。
- ・館内は密閉した空間にならないよう、定期的に換気を行います。

## 広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人事務局芸術文化部  
 (ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 広報宛  
 FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご確認ください。

- (1) キャプションは、作家名、作品名、制作年を必ず表記ください。
- (2) 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- (3) 本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正、掲載誌（紙）、DVD、CD 等をお送りください。

媒体名：

『 \_\_\_\_\_ 』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー  
 ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日：

御社名：

ご担当者名：

E メールアドレス：

@

(〒 \_\_\_\_\_ )

ご住所：

お電話番号：

FAX：

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

<input type="checkbox"/>	①古久保憲満	≪3つのパノラマパーク 360度パノラマの世界「観覧車、リニアモーターカー、ビル群、昔現末、鉄道ブリッジ、郊外の街、先住民天然資源のある開発中の町」≫ (部分)	2011-2016年
<input type="checkbox"/>	②衣真一郎	≪横たわる風景≫	2021-2022年
<input type="checkbox"/>	③ドウ・セーソン	≪モン族の暮らし～日常の風景～≫	2010-2017年
<input type="checkbox"/>	④畑中亜未	≪ライトアップ(1灯)≫	制作年不詳
<input type="checkbox"/>	⑤福田絵理	≪部屋とひとがた、その他のなにか≫	2021-2022年
<input type="checkbox"/>	⑥古谷秀男	タイトルなし	2006年
<input type="checkbox"/>	⑦三橋精樹	無題	制作年不詳

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人事務局芸術文化部 (ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)

担当：横井、赤澤 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837-2

TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp